

【下北地域】

病院プロフィールシート（R 3. 1 月時点）

「地域医療構想の進め方について」平成30年2月7日付け医政地発0207第1号抜粋

①公立病院・・・新公立病院改革プラン

→民間医療機関との役割分担を踏まえ公立病院でなければ担えない分野へ重点化されているかどうかについて確認すること。

②公的医療機関等 2 0 2 5 プラン対象医療機関・・・公的医療機関等 2 0 2 5 プラン

→構想区域の医療需要や現状の病床稼働率等を踏まえ公的医療機関等 2 0 2 5 プラン対象医療機関でなければ担えない分野へ重点化されているかどうかについて確認すること。

③その他医療機関・・・

→地域医療構想調整会議において、構想区域の診療実績や将来の医療需要の動向を踏まえて、遅くとも平成 3 0 年度末までに平成 3 7 （2 0 2 5）年に向けた対応方針を協議すること。



地域医療構想を着実に進めるためには、各病院の機能や役割、今後の方向性等を関係者で共有することが必要であることから病院プロフィールシートの作成を提案（平成30年度）

※具体的対応方針の再検証に係る公立・公的医療機関（※1）の病院プロフィールシートを添付

（※1）平成 2 9 年度病床機能報告で、高度急性期又は急性期機能と報告した公立・公的医療機関

目 次

1	むつ総合病院・・・・・・・・・・	1
2	むつリハビリテーション病院・・・・・・	5
3	大間病院・・・・・・・・・・	7

【病院プロフィールシート】

※修正箇所「赤字」

病院名 一部事務組合下北医療センター むつ総合病院

病床数(床)

令和2年度病床機能報告 現在 (R2.7.1)

一般病床(A)	376	高度急性期(a)	6
療養病床(B)	0	急性期(b)	311
		回復期(c)	59
		慢性期(d)	0
		休棟中	0
		うち再開予定有(e)	0
		〃 無(f)	0
計(A+B)	376	計(a+b+c+d+e+f)	376

将来 (R7.7.1)

一般病床(G)	376	高度急性期(g)	6
療養病床(H)	0	急性期(h)	311
		回復期(i)	59
		慢性期(j)	0
		休棟予定(k)	0
		(廃止予定)	0
		(介護保険施設等へ)	0
計(G+H)	376	計(g+h+i+j+k)	376

(病床機能報告の内容の考え方について)

- 1 当院は、現在、5病棟を急性期、1病棟（地域包括ケア）を回復期、I C Uを高度急性期として報告しております。
- 2 当院は、
 - ・1日平均患者数：入院361.3人、外来997.6人
 - ・病床利用率：一般病棟83.2%、精神病棟81.2% 合計82.9%
 - ・平均在院日数：一般病棟16.3日、精神病棟82.8日 合計18.1日
 となっており、いずれも令和元年度実績となっております。
- 3 下北地域、唯一の救急告示病院として、月平均150件程度、救急車を受け入れており、地域の救急医療を担っています。
- 4 令和元年度の総手術件数は2,028件（全身麻酔772件、腰椎麻酔414件、その他842件）となっております。
- 5 65歳以上の入院患者数は全体の72.4%となっております。
- 6 将来的には、青森県内でも、高齢化率が高い下北地域においては、地域に必要な病床規模、病床機能のあり方を見据え、適正な病床数への調整、特に回復機能を持った病床への転換等適正化に努めます。

平均在院日数 一般：15.8日

病床利用率 一般：81.1% 療養：-%

病床稼働率 一般：86.2% 療養：-%

診療科 合計22科

(内科、消化器内科、循環器内科、外科、消化器外科、心臓血管外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、精神科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産科、婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、歯科口腔外科、救急科)

主な紹介元医療機関 青森県立中央病院、大間病院、みちのくクリニック

主な紹介先医療機関 青森県立中央病院、大間病院、弘前大学医学部附属病院

当病院の現状（認定・指定の状況、主な患者像、地域の役割等）

- 1 地域がん診療病院、救急告示病院、災害拠点病院など下北地域の地域中核病院として、地域住民へ安心・安全な医療提供に力を入れております。
- 2 当院は、大腸ポリープや細菌性肺炎、急性肺炎、胃がん、卵巣がんなどの疾患の患者さんの入院が多く、内視鏡でのポリープ切除や、化学療法などに対応しております。
- 3 高水準のがん治療を提供しており、また血液浄化センターの稼動により、医療圏域内における透析患者への透析医療の充実を図っております。認知症疾患医療センターでは、今後ますます増えるであろう認知症への対応（相談、診断）を行っております。
- 4 地域連携部を中心として、かかりつけ医の利用を患者さんへ呼びかけ、医療連携を推進することで、医療圏における機能分担に取り組んでおります。

当病院の未来像（病床機能・病床数の見込み、施設への転換見込み、院舎建て替えの見込み、地域の役割等）

- 1 現在、病床機能は急性期が主となっております。今後も急性期医療を担う必要性は変わりませんが、人口減少、高齢化による今後の医療需給の変化に柔軟に対応し、地域に必要な病床規模、病床機能のあり方を見据え、回復期機能を持った病床への転換に努め、地域住民の医療需要に即した医療提供体制の構築を目指しております。
- 2 建築後40年が経過し、老朽化が進んでいる入院病棟の立て替えについて、早々に検討を行い、耐震性を備えた新たな病棟の建築に向け歩みだすことで、地域住民にとって安全・安心な医療環境の構築を目指してまいります。

在宅医療への取組状況（現状及び今後の展望）

<退院支援>

退院支援は、病棟看護師全体で取り組み、地域連携部のMSWや訪問看護認定看護師等が退院調整を担当しています。

<訪問診療>

下北地域（主に旧むつ市内）4人の利用者に対し、訪問診療を実施しています。（主に難病の患者さん）

<後方支援>

看取りも受け入れているクリニックと連携し、入院と在宅の調整をしています。

<看取り>

医師不足により、当院では相談に応じて（年に数人程度）対応しており、ほとんどをクリニックに依頼している状況です。

【病院プロフィールシート（具体的対応方針の再検討）】

病院名 一部事務組合下北医療センター むつ総合病院

① 現在の地域における急性期機能や、将来の人口推移とそれに伴う医療需要の変化等の医療機関を取り巻く環境を踏まえた、2025年を見据えた自院の役割

※周囲に医療機関が無いため引き続き急性期機能を担う必要があること、周囲の医療機関と適切な機能分化・連携が図れていること、一部の診療領域に特化しており引き続き急性期病床が必要であること等 については、ここに記載

下北地域においては、民間病院が皆無に近い状態であり、三次救急の医療機関までは最短で2時間を要し、潤沢な医療を提供することが困難であることから、地域完結型の医療提供体制を構築する必要があります。

なお、当院の病棟は45年経過しており、昨年度より新病棟建築に向けて基本構想策定に着手したところであり、地域医療構想を踏まえた当院の在り方についても、併せて検討していくこととなっております。

② 分析対象領域ごとの医療機能の方向性(他の医療機関との機能統合や連携、機能縮小、機能廃止等)

国による分析結果

領域	A	B
がん		
心疾患		
脳卒中		
救急		
小児	●	
周産期		
災害		
へき地		
研修・派遣		

将来(R7.7.1)

※方向性	左記の理由
○	地域がん診療病院
○	常勤医不在のため、弘前大学等と連携し継続
○	常勤医1名体制のため、弘前大学等と連携し継続
○	救急告示病院
○	NICUはないが、弘前大学等と連携し継続
○	周産期母子医療指定病院
○	災害拠点病院
○	へき地医療拠点病院
○	基幹型臨床研修病院

※国提供資料(別添1)の●を転記

※○…引き続き当該領域を担っていく場合
△…他の医療機関との機能統合や連携、機能縮小、機能廃止等
―…以前より当該機能を担っていない場合

③ ①②を踏まえた4機能別の病床数の変動

平成29年度病床機能報告(H29.7.1)

一般病床(A)	376	高度急性期(a)	6
療養病床(B)		急性期(b)	370
		回復期(c)	
		慢性期(d)	
		休棟中	0
		うち再開予定有(e)	
		” 無(f)	

将来(R7.7.1)

一般病床(G)	376	高度急性期(g)	6
療養病床(H)		急性期(h)	311
		回復期(i)	59
		慢性期(j)	
		休棟予定(k)	0
		(廃止予定)	
		(介護保険施設等へ)	

計(A+B) 376 計(a+b+c+d+e+f) 376

計(G+H) 376 計(g+h+i+j+k) 376

【病院プロフィールシート】

※修正箇所「赤字」

病院名 一部事務組合下北医療センター むつリハビリテーション病院

病床数(床)

令和2年度病床機能報告 現在 (R2.7.1)

一般病床(A)	0	高度急性期(a)	0
療養病床(B)	120	急性期(b)	0
		回復期(c)	0
		慢性期(d)	120
		休棟中	0
		うち再開予定有(e)	0
		〃 無(f)	0
計(A+B)	120	計(a+b+c+d+e+f)	120

将来 (R7.7.1)

一般病床(G)	0	高度急性期(g)	0
療養病床(H)	80	急性期(h)	0
		回復期(i)	0
		慢性期(j)	80
		休棟予定(k)	0
		(廃止予定)	0
		(介護保険施設等へ)	40
計(G+H)	80	計(g+h+i+j+k)	80

(病床機能報告の内容の考え方について)

・当院は、下北保健医療圏における唯一の慢性期病床を持つ病院として、長期療養が必要な患者の受け入れに対応できるよう、医療療養病床80床（療養病棟入院料2）及び介護療養病棟40床（療養機能強化型A）の報告をしています。将来的には、介護療養病床40床を介護保険施設等へ移行することを検討中です。

平均在院日数 一般：－ 日

病床利用率 一般：－％ 療養：91.0％

病床稼働率 一般：－％ 療養：91.5％

診療科 合計2科

(内科、リハビリテーション科)

主な紹介元医療機関 むつ総合病院、みちのくクリニック、大間病院

主な紹介先医療機関 むつ総合病院、みちのくクリニック

当病院の現状（認定・指定の状況、主な患者像、地域の役割等）

・当院は、医療法に規定する療養病床の許可及び介護保険法に規定する介護療養型医療施設並びに短期入所療養介護サービス事業の指定を受けております。療養型病床は、病床がある程度安定している患者さんに治療とケアそしてリハビリテーションを行う医学的管理の高い医療的機能と、もう一方では長期にわたって療養を必要とする高齢者や障害のある患者さんに家庭で自立した生活ができるようリハビリテーションや介護中心の療養機能を総合的に行い、在宅復帰を支援する病院です。

当病院の未来像（病床機能・病床数の見込み、施設への転換見込み、院舎建て替えの見込み、地域の役割等）

・地域に唯一の療養型病床の病院です。病床機能も全て慢性期として報告しています。介護療養病床が廃止となる予定であることをふまえて、介護療養病床は、介護医療院、介護保険施設等への移行を検討していましたが、令和2年9月に民間移譲方針を公表し、令和4年4月より民間へ経営移譲することを予定しているため、今後の病床機能については移譲先の意向が反映される見込みです。

在宅医療への取組状況（現状及び今後の展望）

<退院支援>

医療相談係が、ご家族等との面談によりそれぞれの希望を聞き、退院支援に取り組んでいます。

<訪問診療>

むつ市内の1人の患者に対応しております。要望があり、当院での対応が可能であれば増やしていきたい。

<後方支援>

地域のクリニック、施設等からの患者の症状により、入院の受入れを行っています。

<看取り>

患者の要望等により対応を検討していきたいと考えています。

【病院プロフィールシート】

※修正箇所「赤字」

病院名 一部事務組合下北医療センター 国民健康保険 大間病院

病床数(床)

令和2年度病床機能報告 現在 (R2.7.1)

一般病床(A)	48	高度急性期(a)	0
療養病床(B)	0	急性期(b)	48
		回復期(c)	0
		慢性期(d)	0
		休棟中	0
		うち再開予定有(e)	0
		〃 無(f)	0
計(A+B)	48	計(a+b+c+d+e+f)	48

将来 (R7.7.1)

一般病床(G)	48	高度急性期(g)	0
療養病床(H)	0	急性期(h)	48
		回復期(i)	0
		慢性期(j)	0
		休棟予定(k)	0
		(廃止予定)	0
		(介護保険施設等へ)	0
計(G+H)	48	計(g+h+i+j+k)	48

(病床機能報告の内容の考え方について)

- ・当院は現在1病棟48床全てを急性期として報告しています。
- ・救急指定病院として年間275件(R1年実績)救急車の受入れを行い救急医療を実施しています。
- ・当院は下北圏域の中でも北通り地域(大間町、佐井村、風間浦村)に位置し医療機関も当院と風間浦に診療所1施設と医療資源が非常に乏しく、二次医療機関(むつ総合病院)まで車で1時間と離れているため急性期と回復期の病床が必要と考えているが、検討中のため具体的病床数は記載しておりません。

平均在院日数 一般: 15.7日

病床利用率 一般: 59.7% 療養: -%

病床稼働率 一般: 63.5% 療養: -%

診療科 合計7科

(内科、外科、整形外科、皮膚科、小児科、泌尿器科、リハビリテーション科)

主な紹介元医療機関 むつ総合病院、青森県立中央病院、市立函館病院

主な紹介先医療機関 むつ総合病院、青森県立中央病院、市立函館病院

当病院の現状（認定・指定の状況、主な患者像、地域の役割等）

- ・当院は入院、外来診療はもとより血液透析、リハビリテーション、訪問診療、へき地診療、看取り、特別養護老人ホーム等への診療、健診や予防接種、救急医療を行っている。
- ・入院は急性期から回復期の老年期の患者さんの入院が多い。
- ・在宅医療については、片道30分圏内の在宅診療や訪問診療に力を入れており、在宅養療支援病院としての機能も有し、住み慣れた地域・家での最期を支えている。
- ・地域住民の健康維持、増進を目指すと共に、二次医療圏との連携を図り、さらには保健・医療・福祉の充実を積極的に行っている。

当病院の未来像（病床機能・病床数の見込み、施設への転換見込み、院舎建て替えの見込み、地域の役割等）

- ・現在、病床機能報告では全て急性期として報告していますが回復期相当の患者も相当数入院しており今後の回復期の医療需要の増加見込みを踏まえ一部病床機能の転換を検討している。
- ・病床数については現在48床ですが時季により満床近くなるため現時点では見直しを考えていません。

在宅医療への取組状況（現状及び今後の展望）

<退院支援>

専任の看護師がご家族の希望に添った退院計画を立て的確な退院支援に取り組んでいます。

<訪問診療>

大間町・佐井村・風間浦村においてグループホーム4施設、特養3施設、自宅27人に対し訪問診療を行っている。

<後方支援>

当院が訪問診療をしている患者のほかに地域の診療所が担当する患者が急変した際に必要な受け入れを行っています。

<看取り>

緊急往診（看取り）を実施しています。（令和元年度13名・平成30年度12件・平成29年度13件）

【病院プロフィールシート（具体的対応方針の再検討）】

病院名 一部事務組合下北医療センター 国民健康保険 大間病院

① 現在の地域における急性期機能や、将来の人口推移とそれに伴う医療需要の変化等の医療機関を取り巻く環境を踏まえた、2025年を見据えた自院の役割

※周囲に医療機関が無いため引き続き急性期機能を担う必要があること、周囲の医療機関と適切な機能分化・連携が図れていること、一部の診療領域に特化しており引き続き急性期病床が必要であること等 については、ここに記載

- ・当院は現在1病棟48床全てを急性期として報告しています。
- ・救急指定病院として年間275件(R1年実績)救急車の受入れを行い救急医療を実施しています。
- ・当院は下北圏域の中でも北通り地域(大間町、佐井村、風間浦村)に位置し医療機関も当院と風間浦に診療所1施設と医療資源が非常に乏しく、二次医療機関(むつ総合病院)まで車で1時間と離れているため急性期と回復期の病床が必要と考えているが、検討中のため具体的病床数は記載しておりません。
- ・病床数については現在48床で利用率約70%ですが冬期には満床近くなるため現時点では見直しを考えていません。

② 分析対象領域ごとの医療機能の方向性(他の医療機関との機能統合や連携、機能縮小、機能廃止等)

国による分析結果

領域	A	B
がん	●	●
心疾患	●	●
脳卒中	●	●
救急	●	
小児	●	●
周産期	●	●
災害	●	
へき地		
研修・派遣	●	

将来(R7.7.1)

※方向性	左記の理由
○	近隣に病院がないため引き続きむつ病院等と連携し現状機能(抗がん剤治療・連携パス等)を維持していく
○	近隣に病院がないため引き続きむつ病院等と連携し現状機能を維持していく
○	近隣に病院がないため引き続きむつ病院等と連携し現状機能(保存的治療等)を維持していく
○	近隣(車で1時間以内)に救急病院がないため、むつ総合病院等と連携し引き続き下北北通り地区の救急医療を担う
○	近隣(車で1時間以内)に病院がないため引き続きむつ病院等と連携し現状機能を維持していく
-	診療実績なし
○	近隣(車で1時間以内)に病院がないため、むつ総合病院等と連携し引き続き下北北通り地区の当該領域を担う
○	へき地医療拠点病院
○	臨床研修協力病院として、現状機能を維持していく

※国提供資料(別添1)の●を転記

※○…引き続き当該領域を担っていく場合
△…他の医療機関との機能統合や連携、機能縮小、機能廃止等
-…以前より当該機能を担っていない場合

③ ①②を踏まえた4機能別の病床数の変動

平成29年度病床機能報告(H29.7.1)

一般病床(A)	48	高度急性期(a)	
療養病床(B)		急性期(b)	48
		回復期(c)	
		慢性期(d)	
		休棟中	0
		うち再開予定有(e)	
		〃 無(f)	
計(A+B)	48	計(a+b+c+d+e+f)	48

将来(R7.7.1)

一般病床(G)	48	高度急性期(g)	
療養病床(H)		急性期(h)	48
		回復期(i)	
		慢性期(j)	
		休棟予定(k)	
		(廃止予定)	
		(介護保険施設等へ)	
計(G+H)	48	計(g+h+i+j+k)	48